しまねの自然

発行　島根県自然公園協会
〒690-8501 松江市殿町1番地
島根県環境生活部
自然環境課
TEL 0852(22)6172
FAX 0852(26)2142

第37号 平成20年3月

比婆道後帝釈国定公園（奥出雲町・船通山山頂のカタクリ）

特集：世界遺産石見銀山と自然 …… 2
各地で開催の自然観察会等…… 4
みんなで親しむふるさとの杜…… 5
ラムサール条約登録２年目の取組 …… 6
自然保護関係表彰者紹介…… 8
自然公園指導員活動レポート…… 8
防ごう！カエルツボカビ症 …… 9
カブトムシ・クワガタ調査報告…… 9
隠岐島へお越しください …… 10
島根は自然のお宝がいっぱい…… 10

古紙再生紙使用

特集：世界遺産石見銀山と自然

1. 世界遺産石見銀山遺跡と周辺の「自然」を楽しむ旅

大田市

大田市にある石見銀山遺跡は、2007年7月、ユネスコの世界遺産に『石見銀山遺跡とその文化的景観』として登録されました。ユネスコ諮問機関であるイコモスから「延期」の勧告を受け、一時は登録も危ぶまれましたが、他の鉱山遺跡とは性質を異にし、「自然との共生」による鉱山開発であったこと、その結果として閉山後も豊かな自然が残り、素晴らしい景観を保っていることなどが高く評価され、「延期」勧告から一気に「登録」という栄誉を授かったところです。

大田市には、この石見銀山遺跡のほか、四季を通じて楽しめる大山隠岐国立公園三瓶山や、歩くと「キュッ、キュッ」と鳴る「鳴り砂」で有名な琴ヶ浜海岸など、自然を楽しめるスポットが満載です。また、大田市周辺には県立自然公園（立久恵峡、断魚渓など）もあり、市内外で自然を楽しむことができます。

三瓶山西の原

ここでは、国立公園三瓶山を拠点とした一泊二日の『石見銀山と周辺の「自然」を楽しむ旅』をご紹介します。

三瓶山は男三瓶（1,126㍍）を主峰とする四つの峰からなるトロイデ型の火山で、昭和38年に国立公園となりました。三瓶山は、大平原が広がる「西の原」、冬にはゲレンデに変わる「東の原」、国指定天然記念物の三瓶自然林がある「北の原」、そして南麓に、毎分3,000㍑以上という全国的にも屈指の湧出量をほこる「三瓶温泉」と大きく四つのエリアに分かれます。

縄文時代の巨木

三瓶温泉には外湯や宿泊施設もあり、観光拠点として最適です。ここを拠点に、初日は北の原にある県立三瓶自然館で三瓶の自然を学ぶのもよし、西の原でゆったり過ごすのもよし、もちろん登山も良いと思いま

2. 石見銀山の自然と環境 ～三瓶自然館の取り組み～

「自然との共生」。これは、世界遺産・石見銀山のキーワードです。一方で、意味がわかりにくい言葉です。三瓶自然館では、動物、植物、地質の分野から、石見銀山の自然と環境の調査に取り組んでいます。

そのひとつがコウモリの調査です。今春から一般公開される大久保間歩は西日本有数のコウモリ越冬地です。これまでの調査で、冬場は坑内の気温が1～3℃以上と低く、空気の入れ替わりもあるので越冬に適していることがわかっています。

大久保間歩で冬眠しているコウモリ

三瓶山山頂からみた石見銀山一帯

しかし、人の侵入はコウモリにとっては脅威です。公開によって越冬地を奪うことなく、保全と活用のバランスを保つために、今後も継続的に調査を行う予定です。

他にも、鉱山開発に伴う環境負荷や燃料としての木炭の生産と植生の関わりなどのテーマに取り組んでいます。

す。すこし足を伸ばして三瓶山の小豆原地区にある三瓶小豆原埋没林公園にも行ってみましょう。約3500年前の三瓶山噴火によって、立木のまま埋もれた巨木を間近に見ることが出来ます。見上げるほど大きく、威厳のあるその姿は見る方を圧倒することでしょう。こうして一日を過ごした後は、三瓶温泉でしっかりと疲れを癒し、おいしいものを食べて次の日に備えます。

２日目には、世界遺産石見銀山遺跡に赴きます。三瓶温泉から車で約1時間、大田市大森町に、鉱山地区や町並み地区など石見銀山の核となる地区があります。航空写真などで見ると何の変哲もない緑の山々ですが、その姿こそが世界遺産となりえた要因であることを知ってください。

空から見た石見銀山

まずは拠点施設である「石見銀山世界遺産センター」へ立ち寄りましょう(駐車場もここにあります)。ここで石見銀山の全体を知っていただき、現地観光に備えてください。それから路線バスなどで町並み地区へ移動します。環境を保全するため、約３㎞続く鉱山地区や町並み地区では「歩く」ことが基本になります。歩いてこそ見えるものがあり、石見銀山の価値も歩くことで見えてくると思います。また、現地ガイドの説明により、石見銀山は更に興味深いものとなります。一般公開している施設もあり、少なくとも３時間の現地滞在を予定してください。

以上、簡単ですが『世界遺産石見銀山遺跡とその周辺の「自然」を楽しむツアー』をご紹介しました。時間があれば、琴ヶ浜海岸や石見銀山の積出港であった鞆ケ浦（大田市仁摩町)、温泉津・沖泊（大田市温泉津町）などにも足を運んで、石見銀山の栄華に思いを馳せてみるのも良いと思います。

【問合せなど】

島根県立三瓶自然館サヒメル	電話）0854-86-0500	石見銀山ガイドの会(現地ガイド)	電話）0854-89-0120
島根県立三瓶小豆原埋没林公園	電話）0854-86-9500	大田市観光協会(大田市観光全般)	電話）0854-89-9090
石見銀山世界遺産センター(拠点施設)	電話）0854-89-0183		

H19年度ボランティア整備事業
3.銀山街道(やなしおの道)を歩きやすくしました。

木製階段の設置

中国自然歩道を三瓶山は浮布の池から下って行くと、湯抱温泉で銀山街道に合流します。街道の美郷町湯抱から同町小松地までの区間は、特に「やなしおの道」と呼ばれ、ウォーキングツアーが組まれるなど多くの人々に利用されていますが、その一方で路面浸食など歩道の荒廃が進んでいました。

植物名札の取り付け

そこで、自然公園等ボランティア整備事業として「美郷町銀山街道を護る会」主催の「銀山街道を整備する会」が開催されることになりました。

当日（9月26日）は、平日にも関わらず、地元を中心に３０名ほどの方に早朝からご参加いただき、暑さの残る晴天の下、地元建設会社の御協力をいただきながら木製階段の設置や排水処理、植物名札の設置が行われました。翌10月には早速ウォーキング大会も開催されており、今後も石見銀山効果に伴う益々の利用が期待されます。

県内各地で開催された自然観察会等

宍道湖親子しじみウォッチング

出雲市

宍道湖親子しじみウォッチングは、宍道湖沿岸2市1町の自治体で構成される「宍道湖沿岸自治体首長会議」の事業の一環として毎年行われています。このイベントは、宍道湖の湖岸を歩き、湖に入って水に触れ合うことを通じて宍道湖の自然の豊かさを体験してもらい、この豊かな自然を守っていくことの大切さについて啓発することを目的に実施されています。

今年度は8月4日（土）に開催し、そのイベントの一つのコーナーとして、宍道湖漁業協同組合及び平田蜆会にご協力いただき、宍道湖の水質状況や宍道湖に棲む魚・シジミについてお話をしていただきました。宍道湖には多様な生物が生息していることや普段私たちが食べているシジミはどのような環境の中で生きているのか、などについてパネルや写真を使って分かりやすく説明をいただき、参加した子ども達や保護者の方も熱心に聞き入っていました。宍道湖は湖沼水質保全特別措置法に基づく指定を受け、県や周辺自治体が総合的かつ計画的な水質保全施策を行っていますが、水質改善は思うように進んでいないのが現状です。このようなイベントを通じて、少しでも多くの方に宍道湖の現状と課題を知っていただき、豊かな自然を守って行こうという意識を高めて欲しいと思います。

「県民の森」で森林セラピー

飯南町

山陰地方では初めての「森林セラピー基地」となる「島根県 県民の森」で“癒しと健康”をテーマにした森林セラピーモニターツアーを平成19年6月23日、24日に開催しました。

島根県 県民の森は大万木山（1,218 m）や毛無山（1,057 m）をはじめとした山々が連なっており、トレッキングに適した数々のルートが整備されています。県内最大規模のブナ林に覆われ、四季折々の美しい自然を満喫することができる場所です。

森の案内人から植物の説明を受ける参加者

当日のモニターツアーは広島地区から16名の参加があり、都会では味わうことのできない植物の香り、川のせせらぎといった自然の温もりを感じていただくことができました。森林から発せられるフィトンチッドもたくさん吸収し、森の案内人から植物の説明や森の中での過ごし方を聞いたりし、参加者の皆さんも思い思いに自然と触れ合うことができ、癒しを感じていただけた様子でした。

参加者思い思いに自然を満喫する

これからも多くの方に森林セラピーで“こころとからだ”を癒していただけるよう、素晴らしい大自然を大切にし、活用していきたいと考えます。

秋を満喫『キノコ学習会』と『ふれあいハイキング』

津和野町

採取したキノコを分類

11月4日（日）、津和野町で「秋満喫 in 安蔵寺山」と題して「キノコ学習会」と「ふれあいハイキング」が開催されました。

標高1,263 mの安蔵寺山は、西中国山地国定公園の西端に位置し、ブナの原生林が残る豊かで美しい自然の宝庫です。

当日はさわやかな秋晴れで、町内や益田市、浜田市をはじめ、遠くは山口市、周南市などから、キノコ学習会に42人、ふれあいハイキングに19人の参加がありました。

「キノコ学習会」では2つのグループに分かれ、それぞれ講師の指導でキノコを探して藪の中を歩きまわりました。夏の猛暑の影響でキノコの出が遅れていて、例年ほどの種類は見つけられませんでしたが、ブナハリタケやコガネタケ、ムキタケ、ナメコなどを採取しました。また、ツキヨタケやニガクリタケなどの毒キノコについても学習しました。

一方、山頂を目指す「ふれあいハイキング」は、ブナの原生林の残る片道3.2キロの安蔵寺山トンネルから登山。途中、モミジの赤、ブナやミズナラなどの黄色、アシウスギの緑と安蔵寺山独特の自然美を楽しみながら、約2時間かけて登山を楽しみました。

山頂で記念撮影

山頂ではそれぞれに昼食を食べ、さわやかな秋風に吹かれながら美しい秋色を楽しみ、記念写真を撮って下山しました。

下山後は、「キノコ学習会」の参加者たちと合流し、採取したキノコを分類して、見分け方や調理方法、保存方法などについて約1時間の講義を聴き、全員がキノコについての知識を深めました。

みんなで親しむふるさとの杜　“湯野神社の杜”

この事業は、地域の方の手で守り親しんできた森や林を“みんなで親しむふるさとの杜”として島根県が選定し、地元の保全活動を支援するものです。奥出雲町亀嵩の「湯野神社の杜」は、平成19年2月に選定されました。

この神社は、あの「砂の器」の舞台として一躍脚光を浴びた神社です。松本清張氏揮毫による記念碑が参道入口に建てられ、ロケ地で賑わった当時の面影を残しています。

湯野神社の大ケヤキ

鳥居横には樹齢450年とも言われる町指定天然記念物の大ケヤキがそびえ立ち、更に100 m程続く参道の両脇の巨大な杉並木、神社周辺の貴重なモミの純林の群生は、訪れる人を魅了させてくれます。

湯野神社参道の杉並木

また、この神社は、「出雲国風土記」にも記載されている「薬湯の守護神」で、推定二千年の歴史を持つと言われており、歴史的にも胸を張って誇れる郷土の宝といえるでしょう。

宍道湖・中海ラムサール条約湿地登録から2年目の取組

平成17年11月8日、宍道湖と中海がラムサール条約に同時登録され、2年目となる平成19年度の島根県自然環境課の主な取組を紹介します。

【自然環境の保全】

平成18年から始まった「宍道湖・中海一斉清掃」が、平成19年も6月10日（日）に周辺の住民の方々、企業・団体、周辺自治体など約5,700人の参加により実施されました。

また、10月17日には、NPO法人斐伊川くらぶが中心となり、宍道湖・中海周辺の小中高校生、住民の方々など、約1,100人によるヨシポットの植栽事業が宍道湖西岸において行われました。

更に、平成17年から取り組んでいる、宍道湖や中海に流れ込む河川の水質調査についても、昨年に引き続き流入河川周辺の小・中学校が参加しました。（平成17年度：宍道湖側23河川で33校参加　平成18年度：宍道湖側23河川で31校、中海側11河川で26校参加　平成19年度宍道湖側22河川で27校、中海側11河川で18校参加）

一斉清掃

このように宍道湖・中海の環境保全活動は、宍道湖・中海と流入河川域全体で、こどもから大人まで、上流と下流、そして世代をつなぐ取組が継続実施されています。

【普及啓発と賢明な利用を考える】

宍道湖がラムサール条約湿地であることを多くの方に認識していただけるよう、宍道湖北岸を走る「一畑電車」の2両（一編成）が、宍道湖の生きものを描いたラッピング電車として4月28日から運行を開始しました。電車側面に描かれた鳥類や魚介類は車内にも表示し、ラムサール条約についてもご理解いただけるよう、解説板も設置いたしました。初日は記念行事として、親子100人あまりにご乗車いただき、宍道湖西岸の自然観察や宍道湖グリーンパーク、宍道湖自然館ゴビウスなどで環境学習を行いました。参加された方々からは好評で、その後も、一畑電車㈱とホシザキグリーン財団、島根県が協力して、環境学習と組み合わせた活用を行うとともに、広く一般の方にもご利用いただいています。

また、「ラムサール条約湿地『宍道湖・中海』と賢明な利用を語る会」についても、様々なテーマについて意見交換や情報提供などを行い、賢明な利用について考察しました。この会も17年度から通算で8回を数え、19年度は「環境学習」「宍道湖・中海の恵みの活用」「エコツーリズム」をテーマに開催しました。毎回活発な意見が交換され、参加者の方々も様々な考え方を参考に日頃の活動に活かしていただいています。

賢明な利用を語る会

宍道湖と中海は生活圏に近く、美しい景観を持っているため、水産や観光など様々な活用が期待されている中で、環境の保全と賢明な利用についての理解が浸透しつつあるようです。

しんじ湖ラムサール号

ラムサール号乗車風景

【子どもたちの交流と世界へ情報発信】

2005年11月にウガンダ（アフリカ）において開催された第9回締約国会議において、初めて湿地をテーマにアジアとアフリカの子どもたちの交流が行われ、日本からも代表が参加して子どもの視点からアピールしました。この成果を継承、発展させ、ラムサール条約への国内外の子どもたちの参加と貢献をめざして、翌年度からNGOラムサールセンター（本部は東京）が中心となり、国内において、濤沸湖（北海道）、佐潟（新潟県）、中海･宍道湖（鳥取県、島根県）、漫湖（沖縄県）、琵琶湖（滋賀県）、宮島沼（北海道）の6ブロック（地域）で「KODOMOラムサール湿地交流」が開催されてきました。

こうした湿地交流の成果をまとめ、湿地保全の未来を担うリーダーの育成と、本年10月に韓国において開催される第10回締約国会議へ子どもたちのメッセージを発信することを大きな目的として、「KODOMOラムサール〈中海･宍道湖〉全国湿地交流」を2008年2月に松江市を主会場とし、中海･宍道湖周辺をフィールドに開催しました。

この湿地交流は、全国20ヶ所と韓国2ヶ所の湿地から100人の子どもたちが一堂に集まり、各湿地紹介や中海・宍道湖の体験学習などをしながら交流し、子ども会議を重ねて「KODOMOメッセージ」を作り上げました。

KODOMOメッセージ

「命の源　みんなの湿地（たから）　～ぼくらがつなげる命の輪～」

このメッセージは、各湿地から集まった子どもたちが議論を重ね、思いを込めて作り上げたもので、参加した子どもたちは各湿地に帰り、地元の子どもたちや大人に発信するとともに、中海・宍道湖から各方面に向けて発信していきます。

島根・鳥取両県知事も、作成の過程から熱心に見学され、参加した子どもたちへ、激励とこれからの期待を寄せられました。

この湿地交流に参加した子どもたちが各湿地のリーダーとなり、命の源であり宝である湿地を後世に残すための輪を広げ、国内はもとより世界の湿地の保全と賢明利用につなげてほしいと思います。

KODOMO交流パーティー

子ども会議の様子

両県知事と子どもたちの記念写真

自然保護関係表彰者紹介

多年にわたって自然保護の普及啓発等に貢献され、この功績により平成19年度中に表彰を受けられた個人及び団体は、次のとおりです。

皆様のこれまでのご功績に敬意を表するとともに、今後ますますのご活躍を期待いたします。

○島根県各種功労者（島根県知事）

松江市　松野　煒　さん

○自然公園指導員（環境省自然環境局長）

大田市　岩谷由美子　さん

奥出雲町　朝倉　進　さん

○環境保全功労者知事感謝状

飯南町　田辺　良夫　さん

斐川町　青木　充之　さん

吉賀町　コウヤマキ保護育成会

吉賀町　自然と趣味に生きる会

自然公園指導員活動レポート

船通山で早春の花「カタクリ」の保護活動を行なっています

自然公園指導員　佐佐木　幸雄

船通山山頂の草刈作業

雪で倒れた木の除去作業

比婆道後帝釈国定公園の船通山のカタクリ（本誌表紙写真参照）が4月下旬から5月の上旬に咲くことから、ゴールデンウィークには、1日に数百人もの登山者が訪れます。そのため、登山道の整備は大切な春の活動です。4月初めに、雪で倒れた木の除去や、沢を渡る箇所の清掃を行っていますが、特に昨年は、18年7月豪雨で流れた登山道の応急復旧があり、大変な作業になりました。雪解け水の冷たさに手を真っ赤にしながらの作業も、ここを訪れていただく方に快適な登山を楽しんでいただくためと、がんばっています。

カタクリの群生地では、中に入れないようにロープを張ります。まだ芽も出ていない場所に概ねの見当をつけて作業を進めますが、後で見ると良い場所に設置してあり、さすがと自画自賛することもしばしばです。4月中旬にパトロールを始め、4月29日には「カタクリ登山」を行ないます。頂上ではカタクリの紙芝居を行い、保護活動への理解を求めます。種が地上に落ちるころロープを撤去し、パトロールが終わります。最近は、カタクリの盗採は減りましたが、ササユリの被害が増えています。

登山道の応急復旧（橋を設置）

秋には、春の日差しが良くあたるようにと、群生地の草刈を行っています。これをするようになってから、花の咲く数が増えてきています。今後もこの活動を進め、自然保護への理解が深まるよう努力したいと思います。

今年のワッペン（イシドジョウ）について

今年の当協会オリジナル「守ろう！しまねの自然・ワッペン」に登場した生きものは、イシドジョウです。体長は通常4～6cm、昭和45（1970）年に島根県吉賀町で発見され、新種と認定された絶滅危惧Ⅱ類の希少動物です。県内では、高津川、江の川、三隅川、浜田川の各水系上中流域等で確認されています。

毎年好評のこのワッペン、今年もデザインは岡本健一さんにお願いしました（感謝！）

みんなで防ごう！カエルツボカビ症

【元気いっぱいのアマガエル】

○ツボカビとは…

カビの1種で、両生類（カエル、サンショウウオ、イモリ）の皮膚に寄生し、水を介して感染します。カエルに感染すると、その多くが死んでしまうおそれがあるとされています。　※人を含む哺乳類、鳥類、爬虫類には感染しません。

○日本国内と島根県内の状況は…

ツボカビは、外国からペット用カエルとともに日本へ持ち込まれたと考えられています。

国内でもペットの外国産カエルがツボカビ症に感染し死亡した事例や、野生のウシガエル（外来種）への感染事例が報告されています。

環境省からの要請を受け、県内でも都市部を中心に平成19年8月から10月にかけて、8地点でカエルツボカビ症の分布状況調査を実施しました。現在のところ、検査が終了したカエルからはツボカビは検出されていません。

○お願い

いったんツボカビが野外に出てしまうと根絶するのは難しいため、野外に出さないようにしなければなりません。

現在、カエルを飼育している方は、野外に捨てたり、放したりせずに、責任を持って最後まで飼い続けてください。

カエルツボカビ症の詳しい情報は、環境省・外来生物法のホームページで紹介されています。

（環境省・外来生物法のページ）http://www.env.go.jp/nature/info/tsubokabi.html

カブトムシ・クワガタ調査報告

県民のみなさんの参加を得て、身近な生物の分布調査を行う「みんなで調べる島根の自然調査」。8年目となる今年度は、夏の人気者「カブトムシ・ノコギリクワガタ・ミヤマクワガタ」の3種について調べました。さすが人気者だけあり、過去最多となる、のべ2,307人の方から報告をいただきました。

調査の結果、ほぼ県内全域で3種が確認されました。また都市部からの報告も多く、島根県では市街地であっても、カブトムシ達が生息できる雑木林のような環境が多く残されていることがわかりました。

また、今回の調査では、ノコギリクワガタが吉賀町で10月5日に確認されました。これは一般的な発生期間より遅いものです。平成19年は秋の気温が平年より高かったことが理由だと思われますが、自然環境の変化が、虫たちの世界をすぐに左右することを感じるとともに、温暖化がどのように影響してくるのか気になるところです。

調査の結果は三瓶自然館サヒメルのＨＰで公開していますので、ぜひご覧下さい。

http://nature-sanbe.jp/sahimel/shimane_field_survey/2007_insects/index.htm

隠岐島へお越しください

～隠岐の自然景観は豪雨に負けなかった～　西ノ島町

昨年８月30日夜半から未明にかけ、隠岐地方では１時間に100ミリを超える大雨を記録し、特に西ノ島町と隠岐の島町では、住宅の浸水や土砂の崩落、河川の氾濫など過去最大の災害を引き起こしました。

西ノ島町内ではメインの観光スポットである国賀海岸への道路が寸断され、観光客にも影響が出るなどしましたが現在では復旧が進み、主要な道路は通行が可能となっています。一方で国賀海岸の代名詞とも言える奇岩・通天橋などには大きな損傷は見られず、以前と変わらない雄大な姿を見せてくれています。

幾多の風雪に耐えてきた『通天橋』は今回の災害にも無事耐えました。

一部の林道・キャンプ場などで復旧作業中ですが、終わり次第立ち入り制限を解除していきます。災害から復活した隠岐・西ノ島町へ是非みなさんでお越し下さい。

〈注〉隠岐の島町もほぼ復旧しており、現在通行規制のある乳房杉・トカゲ岩・壇鏡の滝・那久岬も８月の開通に向けて復旧作業中です。海士町、知夫村は全く支障ありません。

島根は自然の“お宝”がいっぱいなんです

昨年７月、自然公園法制定50周年記念行事「夏休みには自然公園に行こう」展が東京の新宿御苑で開催され、島根県も参加して島根の自然をPRしてきました。その時のお客様の反応は、「これまで島根に行ったことがない。行っても出雲大社以東（出雲部）だけ。石見銀山遺跡の世界遺産登録を機に島根に行ってみたい。」というものでした。

石見銀山とアクアスのシロイルカが注目を浴び、しばらく石見部を中心に多くの方が島根を訪れるでしょう。その際、石見周辺はもちろん隠岐など他地域にもいい所がいっぱいあることも知ってもらい、願わくば島根のファン、リピーターになっていただきたいものです。

石見銀山や宍道湖・中海のように、見慣れた風景が実は世界的に貴重な人類共通の財産であったりします。世界的かどうかはさておき、島根には自然のお宝がたくさんありますが、その多くは地元以外あまり知られていません。

自然

出掛けよう！野に山に ㉓

ユキワリイチゲとイズモコバイモ

そこで、生活応援情報誌「りびえーる」の連載記事『出掛けよう野に山に』や県自然環境課のホームページ（『出掛けよう野に山に』の記事も掲載しています。）などを通じてPRを図っていきたいと思います。

島根県自然環境課のホームページ：http://www.pref.shimane.lg.jp/shizenkankyo/
パソコンの検索画面で 島根県自然 検索 と検索してください。